

ばんけい

教育ほんといゅーず

かわら版

こみち  
教育の小径 No.134

2019 December

12月号



(一財)総合初等教育研究所参与

北 俊夫先生



今月のことば

しゅうそうれつじつ  
秋霜烈日

秋の冷たい霜と夏の強い日差しは厳しく感じられるところから、刑罰や権威、主義などがきわめて厳しく、おごそかであることをいいます。

## ティーチングとコーチング

- ティーチングは「教える」ことを意味していますが、コーチングには意思や考え、意欲などを「引き出す」役割があります。
- 子どもや授業の状況に応じて、ティーチングとコーチングを使い分け、それぞれの機能を生かすことがポイントです。

今月の  
記念日音の日  
(12月6日)

音楽文化・産業の発展を図り、音について考えることを目的に、平成6年(1994年)に制定されました。この日は、エジソンが蓄音機の音の録音と再生に成功した日です。

## コーチングとは何か

教育とは教えることと育てることです。教師は「ティーチャー」と言われるように、教師の仕事はこれまで子どもに教えること(ティーチング)として捉えられてきました。ティーチングという手法は、成長・発達の途上にいる子どもたちに基礎的な知識や技能を伝えるときには優れています。時間も少なく済むので効率的です。

しかし、教えるという行為は「教師→子ども」という方向の関係性のなかで行われます。そのため、子どもの学ぶ姿勢は受け身になり、子どもは教師に依存しがちです。また、教師は自分のもっている知識や技能を教えるわけですから、教師がもっている内容以上のことを子どもが身につけることは期待できません。

近年、企業での社員研修やスポーツ選手の養成などの分野で、「コーチング」の手法による人材育成や能力向上が注目されています。ここでは、相手に一方的、強制的に「教える」のではなく、相手の潜在的な能力を「引き出す」ことを重視しています。

「教える」ことより「引き出す」ことを重視すると、子どもたちの受動的な姿勢は徐々に自発的になります。教

師に依存しがちな姿勢から自律的(自立的)になります。そして、自ら考えることやモチベーション(意欲ややる気)が高まると言われています。複数の子どもたちがいる場では、協働して考え、行動しようとしています。

教師の言葉はどうしても「こうなさい」と命令調になったり、「こうだよ」と押しつけ的になったりしがちです。子ども自身が将来にわたって自己を成長させるためには、何より子どもの意見や考えが重要になります。そこでは子どもの意思や考えを引き出し、伸ばす言葉かけを重視します。

子どもの発想を引き出し生かすことは、教師の重要なコミュニケーション能力のひとつと言えます。

## ティーチングとの使い分け

コーチングのポイントは、子どもを「支える」、子どもから「引き出す」ことを重視した教師の言葉かけにあります。例えば「どうしたらよいのか」「何を考えているのか」「どのようなことに取り組みたいのか」などと問いかけます。子どもの意思や考えを子ども自身に決定させ、それらを出発点として促します。

このような問いかけができるようになるには、これまでの教師主導の指導

観や児童観を転換させることが求められます。教師の姿勢が問われます。

子どもと教師の関係は、ティーチングでは一方向になりがちですが、コーチングでは双方向の関係を維持する必要があります。

コーチングの手法が強調されると、それだけが重視され、指導することを躊躇しがちです。教えることを軽視する傾向があります。「教えてはいけない」「引き出さなければならない」などと極端な考えや取り組みが見られるようになります。

重要なことは、子どもの状況を観察しながら、実態や課題を踏まえてティーチングとコーチングを効果的に組み合わせることです。基礎となる知識や技能を習得させる初期の段階では、ティーチングが効果的です。低学年の子どもであっても、子どもの主体性を尊重するコーチングの手法を取り入れることも必要です。

これまで教育界で使われてきた用語に置き換えると、ティーチングは「指導」に、コーチングは「支援」に当たるでしょう。教えることを躊躇する必要はありませんが、一方的に教え込むだけでは、子どもたちの十分な成長は期待できません。子どもたちの自発性や自律性を伸ばす指導方法として、いまコーチングが注目されています。

## 係りの決め方

学級には、日直をはじめ学習係、栽培係、図書係など子どもたちの学校生活に関わる係りがつくられています。学級での活動には清掃や給食の配膳や後片付けなどもあります。係りをつくって仕事を分担することによって、学級をスムーズに運営することができます。係りは年度や学期の始めに決めることが多いようです。

係りは次のような手順や方法で決めることができます。まず、なぜ係活動を行うのか。なぜ係りが必要なのかを考えさせます。いかなる集団や社会にも、それらを維持するための仕事があり、みんなで分担しています。その結果、協力し合いながら楽しく快適な集団をつくることができます。

次に、学級にどのような係りがあるかを話し合います。仕事の内容や理由を含めて考えさせます。これまでの経験も生かしながら、従来の観念にとらわれず子どもたちの発想を重視します。子どもの発達段階を考慮して高度になりがちな係りは省きます。

そのうえで、係りごとに担当する子どもを決めます。グループ（班）ごとに話し合いながら決めさせるとよいでしょう。係りごとに集まったとき、グループを代表しているという意識をもたせることができます。さまざまな係りを体験することができるように、輪番制にする方法もあります。

決定した係りを表に整理して、教室内に掲示しておきます。期間を決めておき、係りを定期的に変更することを予告しておくといよいでしょう。

子どもたちの主体性を尊重しつつ、意欲を無くす子どもが出ないように、教師は適切に関わることが重要です。

# 教育の動向

## 「子供のSOSダイヤル」

いじめ防止対策推進法が施行されて6年が経過しました。各学校では、学校いじめ防止基本方針を策定し、いじめの撲滅に向けて全校体制で全力で取り組んでいます。ところが、残念なことに、いじめが無くならず、いじめがきっかけになって自殺に追い込まれる痛ましい事件が後を絶ちません。

文部科学省の直近の調査によると、いじめの問題に対する取り組みについて、職員会議などで共通理解を図っている学校が9割を越えているものの、校内研修を実施している学校は78.8%にとどまっています。

学校はもとより、文科省や教育委員会、児童相談所、警察署、NPO法人などがいじめゼロを目指してさまざまな取り組みを展開しています。その一つに「24時間子供SOSダイヤル」があります。文科省はホームページで「いじめで困ったり、自分や友人の安全に不安があったりしたら、一人で悩まず、いつでもすぐ電話で相談してください。」と呼びかけています。電話番号は、「0120-0-78310（なやみ言おう）」です。原則、電話をかけた地域の教育委員会の相談機関につながるようになっていきます。

各学校では、いつでも気軽に相談できる体制と雰囲気をつくるとともに、電話による相談窓口があることを子どもたちや保護者に周知しておきます。

## 北 俊夫の「実践と研究」の足あと

# 2

### 初任校での体験

最初に勤務した都内の学校は、新設校でした。当時は、住宅団地が造成され、人口の急増期でしたので、毎年のように新設校が誕生していました。

4月1日に学校に行ったとき、職員室には机や椅子がまだ用意されていませんでした。トイレの水も使えませんでした。女性の先生は近くの民家に借りに行きました。校地には体育館もプールもありませんでした。施設や設備が十分に整っていませんでした。

校務分掌を決めるとき、社会科主任がなかなか決まりませんでした。教頭の「北さん、やってくれないか」の一言で、いきなり主任を務めることになりました。主任の役割などももちろん認識していませんでした。このことが他の学校の先生方から指導を受けるき

かけになるとは、その時は思いもしませんでした。

入学式は、教室と教室の間の仕切りを取り外して、教室2つ分の広さのところで行いました。2年生以上の子供もたちは、近隣の2つの学校から来ていました。子どもたちは落ち着きがなく、基本的な生活習慣や規律が身につけていなかったため、4月当初から生活指導で苦労しました。

新設校では、通常の学校に勤めたときに経験することのできない貴重な体験をすることができました。校章や校旗のデザイン、校歌の作詩・作曲、学校のきまり、通知表の様式、遠足や社会科見学の行き先などを決めました。すべてが一からのスタートでした。

こうした体験は、私の人生でその後二度とありませんでした。初任校でのことはいまでも新鮮に思い出されます。

## INFORMATION

ぶんけいの  
移行措置対応

## 教科別しあげ教材

ぶんけい



各種学力テスト対策に使える!

○年へGO! は全学年に冊子型「学力定着確認GO!テスト」つき

1年間の学習を  
教科ごと、1冊で  
まとめて復習!

## 編集後記

不登校児童生徒への支援の在り方について文科省より通知が出されました。これからは不登校生が学校復帰という結果のみを目指すのではなく、児童や生徒の様々な選択肢を支援するという方針になります。この通知によってさらなる学習機会の拡充が期待されます。(K記)

企画・編集：ぶんけい教育研究所  
発行：株式会社文溪堂  
発行日：2019年12月1日